

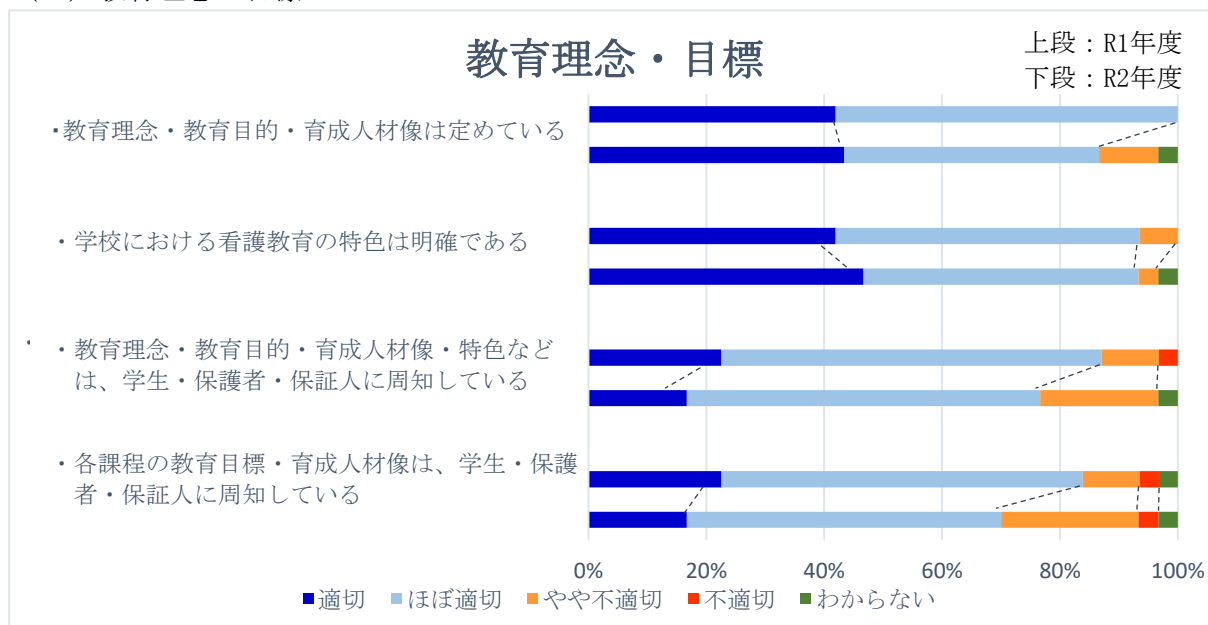
京都府医師会看護専門学校

令和2年度 自己点検・自己評価

I. 教育理念・教育目標・人材育成

N=30

(1) 教育理念・目標

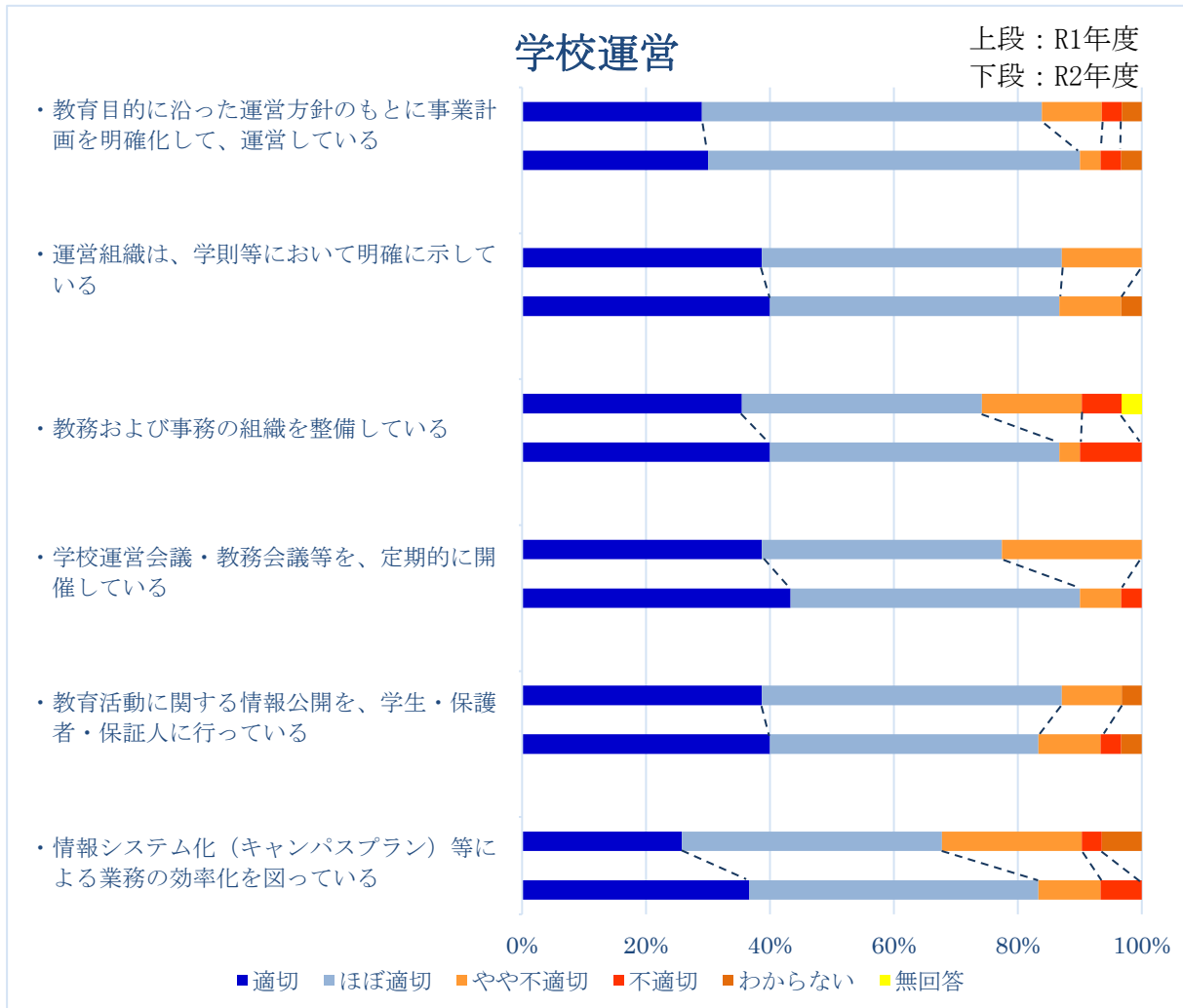


自己評価	外部評価
<p>全項目において、「やや不適切」「不適切」が増加した。今年度は、新型コロナウイルス感染症の予防対策の影響で、授業や行事、特に教育理念・目標を周知する場の保証人会が開催されなかったことから、「やや不適切」「不適切」の回答が増加したと推測される。加えて、新任教員は保証人に周知している場面を今年度は経験していなかったことで評価自体ができなかったと考える。</p> <p>次年度は、保証人会が開催されなくても、ポータルやお知らせ文章、ホームページで開示できるよう工夫していく必要がある。</p>	<p>先が見通せないコロナ禍において、慈愛・知性・勇気を基盤とされている教育理念は、今後一層求められる大変素晴らしいものであると考えます。諸般の事情で学生・保護者への周知が少し低調であったとのことですが、一層の工夫をされることを期待いたします。</p> <p>昨年よりも不適切が増加した点においてはコロナ禍である為の影響もあると思いますが、工夫し改善できるようにしていただければと思います。看護師の育成には大きく貢献されていると思います。</p> <p>保証人会等、行事的に困難な事態であることは世論的にも理解できます。今後、HPやZOOM、メール(LINE)などでアピールできる手段の中で、代替えできることも多いと思います。</p> <p>コロナの影響で授業や行事などかなりの制限が生じた中でいろいろ工夫をされて取り組まれていたと思う。今後</p>

も、HP 等を活用し学校の方針などを浸透していただきたい。

II 組織運営

(1) 学校運営



自己評価	外部評価
<p>「教育目的に沿った運営方針」や「学則に基づく運営の明確化」や、「定期的な会議の開催」については「適切」「ほぼ適切」が昨年度よりも増加し 90% 近くを占めた。今年度はコロナ禍のため勤務者の 8 割減の規制もあったが、リモート会議を活用し、朝の朝礼、ラジオ体操を始め、教務会議、合同会議を行い、教員間の連絡、報告を密に心掛けたことを評価したものであると考える。学校運営が厳しい状況にありながら、教員はさまざまな立場で改めて学校運営について考える機会となった。今後もどのような状況であっても学生の立場にたったの運営を模索する必要がある。</p> <p>「教育活動に関する情報公開を、学生、保護者、保証人に行っている」については「適切」「ほぼ適切」が 80% を超えるが昨年度よりも減少した。今年度は、入学式や保証人会などの行事も中止となり、保護者と直接対面できる機会や、情報公開できる機会が少なかった。</p>	<p>教育目的に沿った運営方針に基づいた教育活動の展開は、施設設備の充実なくして成り立ちません。ましてコロナ禍で、早急な対応を求められた ICT 機器等を短期間のうちに整備されたと伺い、素晴らしいと感じております。これが教員の皆様の事務作業軽減につながったとのこと、まさしく「働き方改革」の一助となっているのではと拝察いたします。</p> <p>教員の皆様においては生徒たちが社会の変化に対応できる教育等をいろいろ考えて取り組んでくださっていると、思います。看護師の育成には大きく貢献されていると思います。</p>

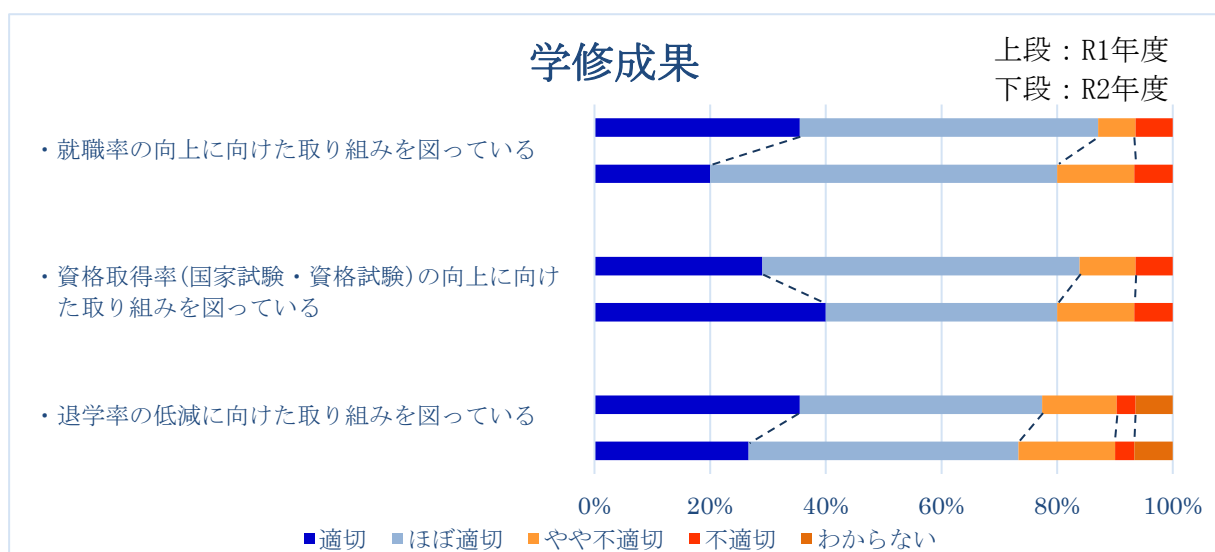
今後は対面式だけでなく、リモートを活用するなどの工夫した会議設定が必要である。

「教務および事務の組織の整備や情報システム化」について「適切」「ほぼ適切」が昨年度よりも増加し80%以上を占めた。教員と教務事務との連携や学籍管理について精通してきた教員もいるが、その教員も限定されており、今後は複数の教員や教務事務が対応できる体制を整える必要がある。事務組織は整備され、教員のサポート体制は整っているが、今後教務事務へ委任できる仕事内容を整理し、教務事務と事務室が一体化し、教員のサポート体制をより一層整えていくことが次年度の課題である。

様々な制限のある中で工夫を重ね教員間の報告・連絡が密に行われた結果、組織整備に繋がったことは、素晴らしい成果であると思います。これと連動して学校運営会議や情報システム化への理解が深まったものであると思います。

コロナ禍の為に学校運営においても困難を極められたと思われる。そのような状況の中で、リモートの活用などにより工夫を重ねていただき運営いただけたことがうかがえる。

(2) 学修成果



自己評価	外部評価
<p>「就職率の向上に向けた取り組みを図っている」については、「適切」・「ほぼ適切」が80%で、昨年度より減少している。反対に、「不適切」・「やや不適切」が20%と増加した。近年、医療施設の就職試験の早期化が進む中、今年度は、コロナ禍の影響により募集人数の減少や時期の遅れなどにより、希望する施設への就職が叶わず、就職内定まで期間を要した学生も複数いた。今年度の現状を踏まえ、就職に関する指導は入学早期から開始し、随時情報提供するなど、早期就職活動にむけての動機付けを行っていく必要がある。また、次年度も就職フェアや説明会の中止や、インターシップへの参加ができない状況が想定されるため、学校として京都府看護協会等からの就職に関する情報収集に努め、学生への支援に繋げていきたい。</p> <p>「資格取得率(国家試験・資格試験)の向上に向けた取り組みを図っている」については、「適切」・「ほぼ適切」が83.8%から80%へ減少している。4課程ともに、資格取得に向けて計画的に試験対策を取り入</p>	<p>全国平均を上回る資格取得率であるとのこと、先生方のご指導と学生さんの努力に心から敬意を表します。一方でコロナ禍も相俟って少なからず不調をきたした就職活動については、早期から、かつ切れ目なく取り組まれる工夫が肝要かと存じます。会議でおっしゃっていましたが、「大学」がライバルとなる点への対応、また、素人考えで申し訳ありませんが、どうしてもまずは「国家試験合格」が目標(当然ですが)となり、「就職」への意識付け遅れがちとなるのであれば、改善点の一つかなと存じます。</p> <p>今後も早い段階で試験対策を行い全教員・生徒自身も努力し100%合格を目指していただきたいと思います。</p>

れたり、模擬テストの結果を分析し学生の到達度に応じた学習支援を個別に行ってきた。しかし、全科、最高学年は、臨地実習が学内代替実習へ変更になったことで、臨地で学べる臨床判断に必要な知識や技術修得に不安が残ったことで、低評価になったものと考えられる。また、始業時アンケート（スタートアップアンケート）の結果からもコロナ禍の影響で、精神面でのサポートが必要な学生も多く、担任だけに任せるのではなく、スクールカウンセラーを含めた協力体制を強化する必要があることを再確認した。教育訓練給付金の対象校でもあることから、引き続き国家試験、資格試験の100%合格に向けて、全教員でさらなる支援の強化を図っていききたい。

「退学率の低減に向けた取り組みを図っている」は、「適切」・「ほぼ適切」が77.4%から74.4%へ減少している。また、「わからない」が依然横ばいである。「わからない」の理由は、自分が担当していないというものであった。今年度の前期はリモート学習が多かったため、例年より後期に退学者が増えた。退学理由の中にはコロナ禍による経済的困難をあげるものも複数いた。

次年度も引き続き、全教員が一人の退学者も出さないように学生ひとり一人を大切に教育に当たっていききたい。

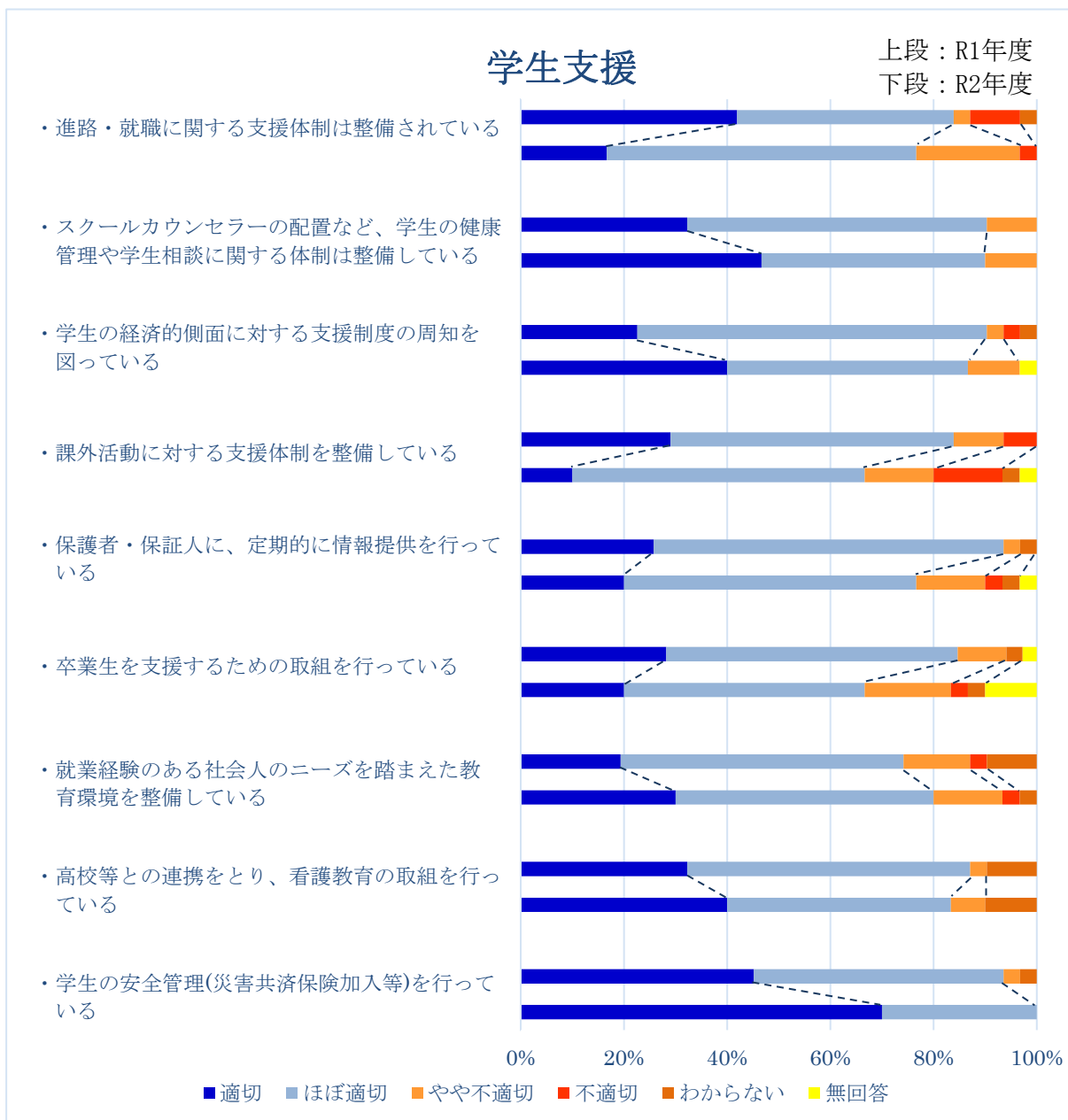
准看護科は次年度で閉科となる。学力不足による留年者や退学者が出ないように、教員、実習施設との情報共有を密に行い、学生への介入が遅れないように計画的に行っていく必要がある。

退学者の低減については個々に色々な事情があり難しいと思います。学校側としては状況に合わせた対応を適時に実践していただけたらと思います。

学修成果では、「不適切等」の評価が増えていますが、何よりも国家試験の合格率の高さが教員や事務の方々の努力の結果であると思います。

やはりコロナ禍の影響で、臨地実習が学内代替実習に変更になった事の影響は心配である。しかし、臨地実習とはまた違った意味で学内実習による学びの成果はあると感じる。専門学校としては、国家試験・資格試験の100%合格に向けて支援は強化していただきたい。

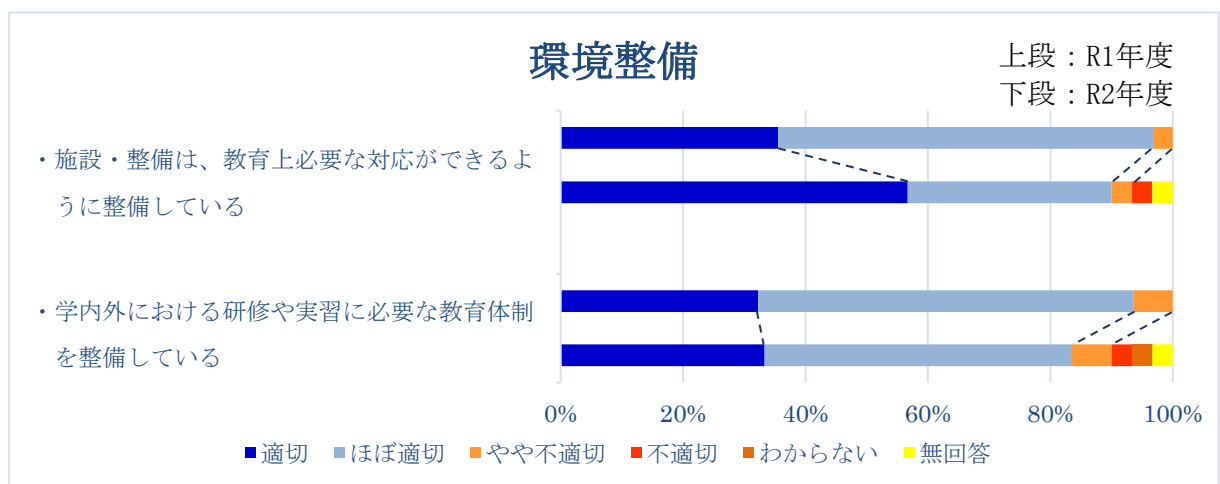
(3) 学生支援



自己評価	外部評価
<p>全9項目のうち、2項目で「適切・やや適切」とする回答が昨年度より増加しており、特に「学生の安全管理(災害共済保険加入等)を行っている」については100%を占めている。加えて、「スクールカウンセラーの配置など、学生の健康管理や学生相談に関する体制は整備している」に関して、「適切」が昨年度より20%上昇しており、コロナ禍において感染対策の徹底や健康管理の強化など教職員が一丸となって取り組んだ結果だと言える。学校独自のガイドラインを設け適宜見直し、教職員・学生への周知をポータルにて速やかに実施したことも評価できる。一方で、7項目が昨年度よりポイントを下げている。特に、「課外活動に対する支援体制を整備している」と「卒業生を支援するための取組を行っている」について20%減少しており、これはコロナ禍における自粛が続き、カ</p>	<p>スクールカウンセラーの増員配置等により、学生に寄り添った教育環境整備が充実していることは、昨今の若者事情等を勘案すると不可欠であると存じます。「悩み相談」の内容において「教員に関すること」が減少したことは好ましい結果であると存じます。また、経済的支援について、相談対応や情報提供等も奏功されたようですので、継続してください。</p> <p>スクールカウンセラーの配置や学生の健康管理、生徒からの相談に関する体制を整えられ、コロナ禍で経済的に支援が必要な学生に対しても情報を提供さ</p>

<p>ムバックスクールを始めとする行事の中止が影響したと考える。</p> <p>「経済的側面での支援制度」について、今年度は、コロナ禍の影響によりアルバイトの制限などから経済的に支援が必要な学生もいたが、学習が継続できるための国・京都府からの給付金などの情報を学生へ提供し、経済的支援へ繋げることができた。今後も引き続き、相談窓口や公的支援の情報提供を継続していく。</p> <p>保護者・保証人や高校、施設との連携については、新型コロナウイルス感染症が収束することによって徐々に通常の行事、交流を再開していきたい。</p>	<p>れ繋げられたことは評価できると思います。今後も引き続き情報提供をしていただければと思います。</p> <p>学生支援では、コロナ禍の影響が多大であると思います。その中で、学生の健康管理や相談への取り組みで感染対策を徹底されたことは、病院組織でも見習いたい点でもあります。</p> <p>コロナの影響により、授業の在り方など様々な課題に対して対応いただきながら、学生支援の強化は難しかったと思われる。コロナ禍の自粛によるメンタル面のサポートや、経済的側面の支援は学内だけでは難しく公的支援の強化が必要と感じる。</p>
--	---

(4) 教育環境
ア 環境設備



自己評価	外部評価
<p>「施設・設備は教育上必要な対応ができるように整えている」では「やや不適切」・「不適切」が 6.4%であった。今年度はコロナ禍により、5月よりリモート授業が開始できるように、主要な教室に Wi-Fi 環境を整え対応した。また、学生の自宅にオンライン環境が整備されていない場合には、学内でリモート授業が受講できるよう ipad を貸し出すための環境を整えた。現在では、学生が使用する全教室に Wi-Fi が整備されている。</p> <p>対面授業時には、感染防止のため、学生が密にならないよう、1 教室最大 35 名とし、それ以上になる場合は合同教室や体育館を使用した。しかし、体育館使用の学生からは「黒板がない、音声がかえにくい、全体的に暗い、黒板に書いても遠くて見えない、寒い」などの意見があった。講師からは「黒板がないため効</p>	<p>在宅学生との双方向リモート授業や学内リモート授業実施のための整備を速やかに推進され良かったと思います。実施の中で生じた課題に対して今後改善を図られると存じますが、看護教育についてはリモート授業の限界というものがあるのかな・と心配しております。コロナ禍の終息を願うばかりです。</p> <p>リモート授業がスムーズにできるように、Wi-Fi を施設全体に設備され、カメラやスピーカー、iPad も整えられたりして環境を整えて下さったことは評価できると思います。</p>

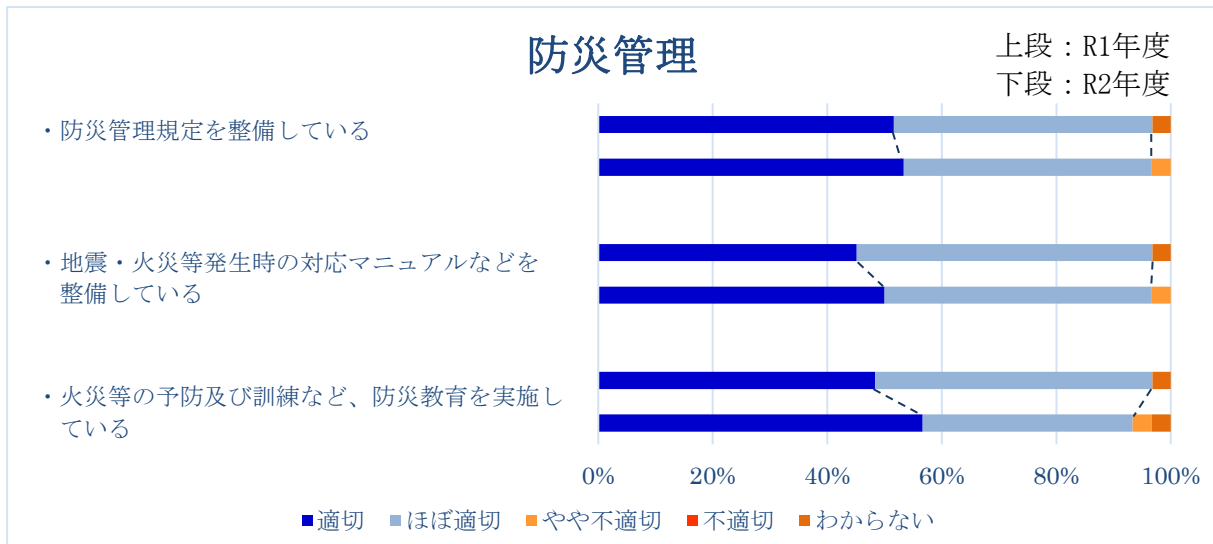
果的な授業ができない」などの意見があった。これらに対して、スクリーン、スピーカー、暖房器具などを整備し可能な限り要望に沿えるような環境を整えた。オンライン授業では、講義の方法をリモート仕様に工夫するなどの対応をお願いし試みたが、黒板を利用したい講師や体育、技術演習などの授業に関しては課題が残った。

「学校外における研修や学習に必要な教育体制を整備されている」では、「やや不適切」・「不適切」は昨年度 0%であったが今年度は 6.4%、「わからない」が 3.3%であった。今年度は学内の研修会を中止した他、学外の研修も中止または一部リモート研修となった。リモート研修には多くの職員が参加（オンデマンドで視聴）したが、必ずしも職員のニーズに合った研修会の参加とならなかったとも思われる。

研修や実習の困難さは臨床現場でも感じている事ですが、多くの工夫を重ね大きな影響が出ていないことが成果であると思います。

いろいろな課題はあると思うが、リモート環境を整え学生の学びが少しでも向上するように対応いただけていると思われる。

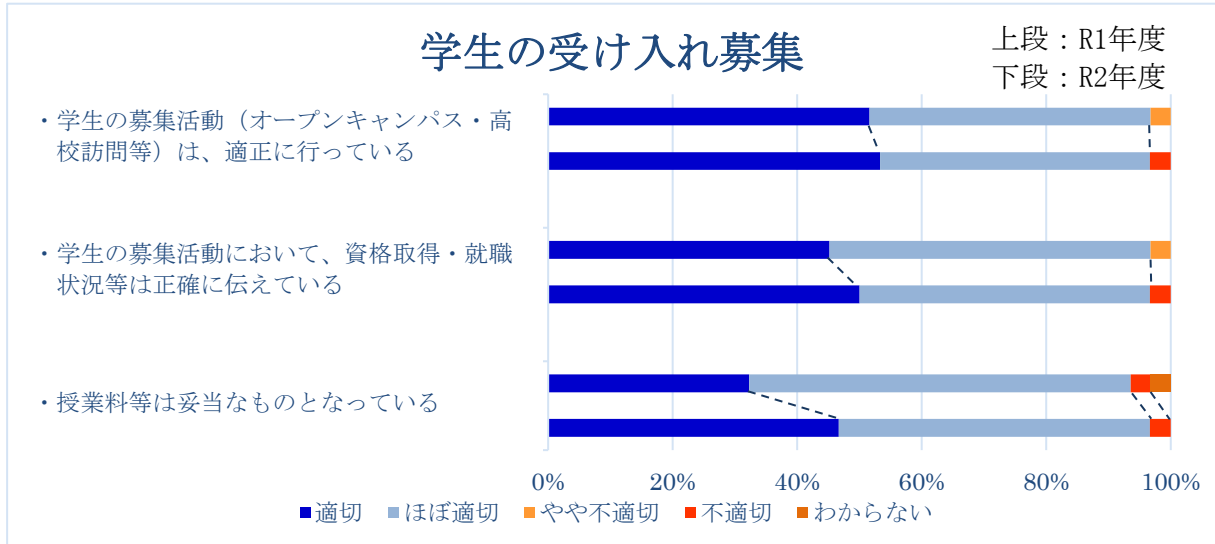
イ 防災管理



自己評価	外部評価
<p>「防災管理」に関しては、「やや不適切」の回答は昨年度 0%であったが、今年度は 3.2%であった。例年であれば 10 月に教職員対象の防災訓練や学生対象の訓練を実施しているが、今年度は感染防止の観点から何れも実施されなかった。「わからない」との回答も 3.3%あり、今年度入職した教員が防災訓練の実施を体験していないことも要因である。</p> <p>防災訓練は災害時に備えて毎年実施する必要がある、訓練を実施することで教員も学生も避難行動を確認することができる。次年度は感染予防対策を講じながら、訓練を実施する必要がある。同時に、本校が指定されている妊産婦福祉避難所に関する訓練も行い、教職員に周知していく必要がある。</p>	<p>避難訓練を今年度は実施できませんことを祈っております。また、医療現場において、いざという時に看護師は避難誘導も担わなければならないのかなと思います。その点に留意した避難訓練等はされるのか案じております。</p> <p>コロナ禍で感染防止の観点から防災訓練等は実施しにくいこともあるかもしれませんが、災害時なども視野に入れながらの訓練は必要であると思います。色々大変だと思いますが令和 3 年度は実施していただきたいと思います。</p> <p>適切で問題ないと思います。</p>

	<p>コロナ禍ではあるが、看護の専門職として災害時に備えての訓練は取り組んでいただきたい(看護職の倫理綱領にも16条として追加されているので)。</p>
--	--

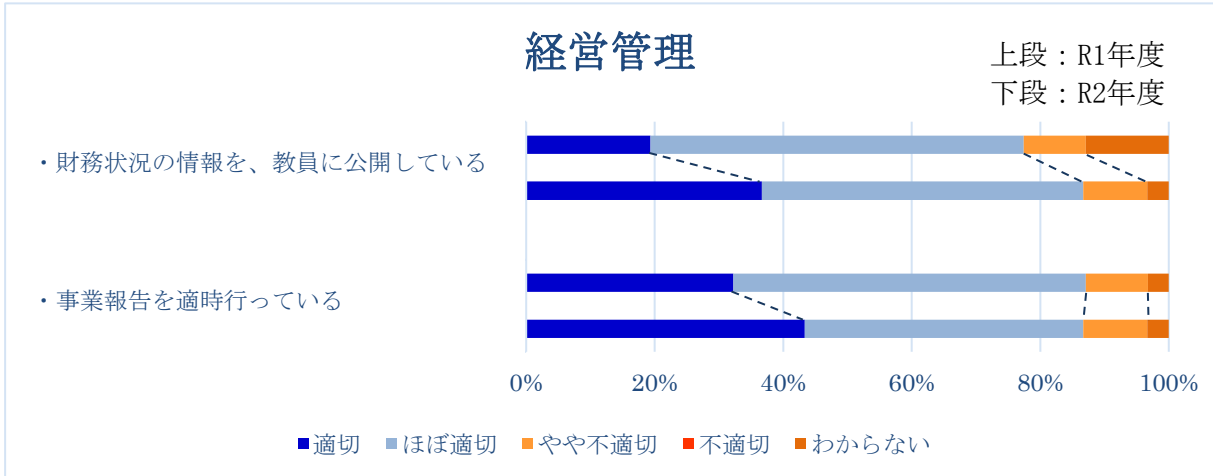
(5) 学生受け入れ募集



自己評価	外部評価
<p>「学生の募集活動」に関しては、「適切」・「ほぼ適切」が96.7%と、昨年度と変わらない結果である。今年度のオープンキャンパスは、コロナ禍において、感染防止対策を徹底した上での運営を工夫し、4回の実施ができた。参加者は、昨年度の625名より25%減少し468名であったが、感染予防対策のための参加者数制限によるものと考ええる。毎年恒例で好評であった在校生による校内案内ができなかったため、今年度は教員が作成した学校紹介動画を流すなどの工夫を行った。また、各種広報媒体への投稿や地下鉄四条駅コトチカビジョンで8月31日～9月6日の期間デジタルサイネージを活用した広報に努めた。高校訪問については、コロナ禍の状況を踏まえ、直接の訪問を控え書面による広報からスタートし、直接訪問へと時期により方法を変更して実施した。来校による公開授業に東稜高校、出張授業に八幡高校2回、木津高校、洛水高校、京都すばる高校に教員が出向いた。今後も印象に残り選ばれる学校となるよう工夫した広報活動を実践していきたい。特に、高校生・現役生がオープンキャンパスへ参加しやすい時期や方法を考えていきたい。</p> <p>「資格取得・就職状況などは正確に伝えている」「授業料等は妥当なものとなっている」に関しては、「適切」・「ほぼ適切」が96%以上であった。資格取得・就職状況の伝達については、今後もホームページへの掲載とオープンキャンパスでの説明を充実し、学生募集に繋げたい。</p>	<p>我々高等学校が中学生対象に学校公開を実施する際、生徒の姿を観ていただくことで随分好印象となるようです。御校にとっても学生さんとの交流授業は大変意義深いものとなっておりますので、今後とも可能な範囲で高等学校との交流等を直接的間接的に募集へと繋げられたらと存じます。</p> <p>コロナの影響で難しい部分もありましたが、感染予防対策を徹底され今年度はオープンキャンパスが実施されたことは良かったと思います。また学校紹介動画を作成されるなど努力されたと思います。学生達の元気な笑顔は各方面でも評価され募集に関係されると思いますので感染が落ち着きましたら従来のように繋がりを持てればと思います。</p> <p>適切で問題ないと思います。</p> <p>コロナ禍で取り組まれた教育などもPRしてもいいのではないだろうか。</p>

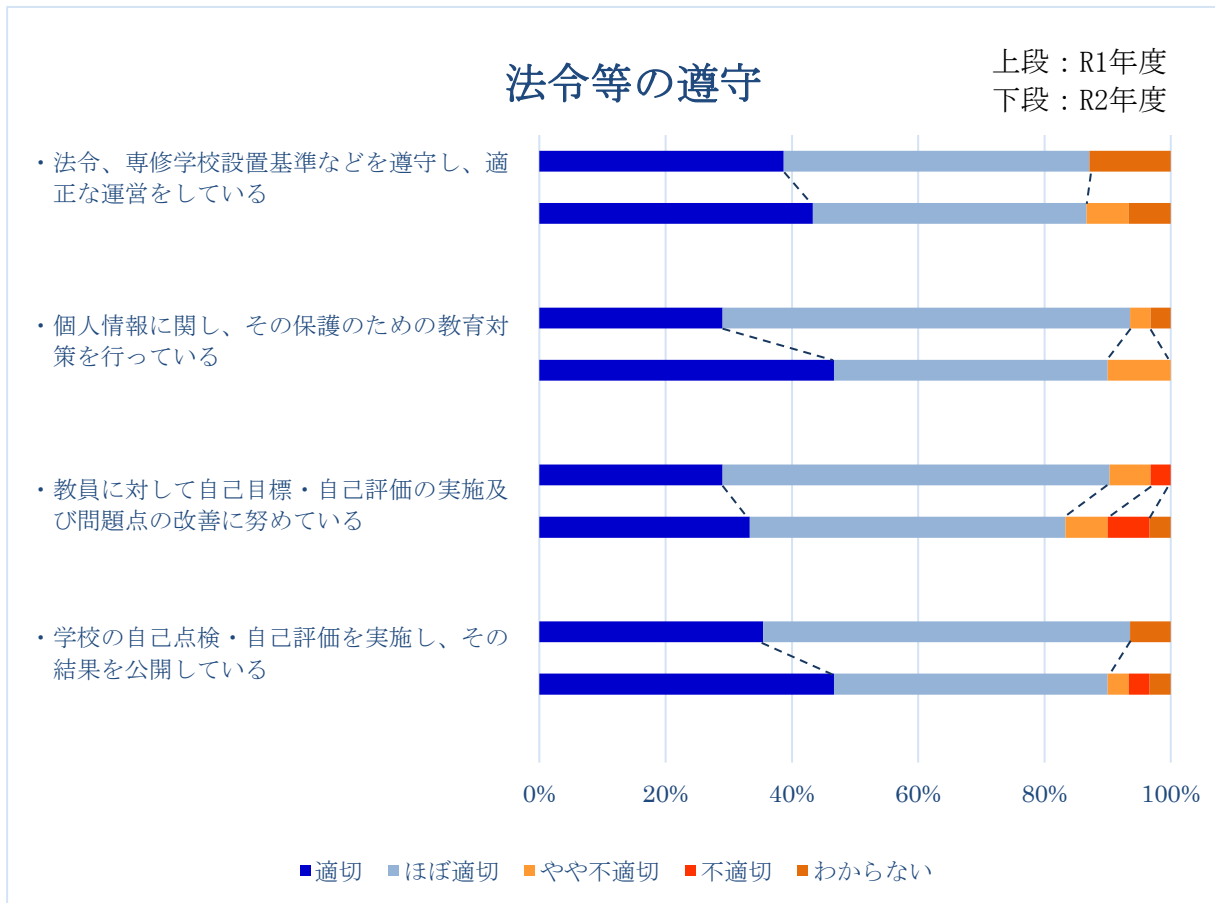
今後、2年課程の閉課に伴い、助産学科と看護学科3年課程の2学科になるため、より魅力的な学科作りを目指したい。職業実践専門課程やキャリア支援プログラムの認可は本校の魅力の一つとして今後も積極的にPRし学生獲得に努めたい。

(6) 経営管理
ア 財務



自己評価	外部評価
<p>「財務状況、事業報告」については何れも「適切」・「ほぼ適切」が87%と例年通りである。一方で「やや不適切」・「わからない」が13%であった。財務状況は年度初めの合同会議で事務長より説明があるが、今年度は2月の合同会議でも説明があり教職員には公開している。事業報告については、毎年主任に冊子で配布される。13%の否定的回答者の中には会議欠席等で財務状況報告の機会を逃している可能性もある。重要会議の参加率をあげるとともに、欠席教員への報告の徹底も必要である。また、事業報告については、課内で回覧するなど、教職員が経営管理に関心をもてるようにしていく必要がある。</p>	<p>引き続き、一層の向上に向けて推進されますよう祈っております。</p> <p>適切に管理されていると思います。</p> <p>適切で問題ないと思います。</p> <p>意見なし</p>

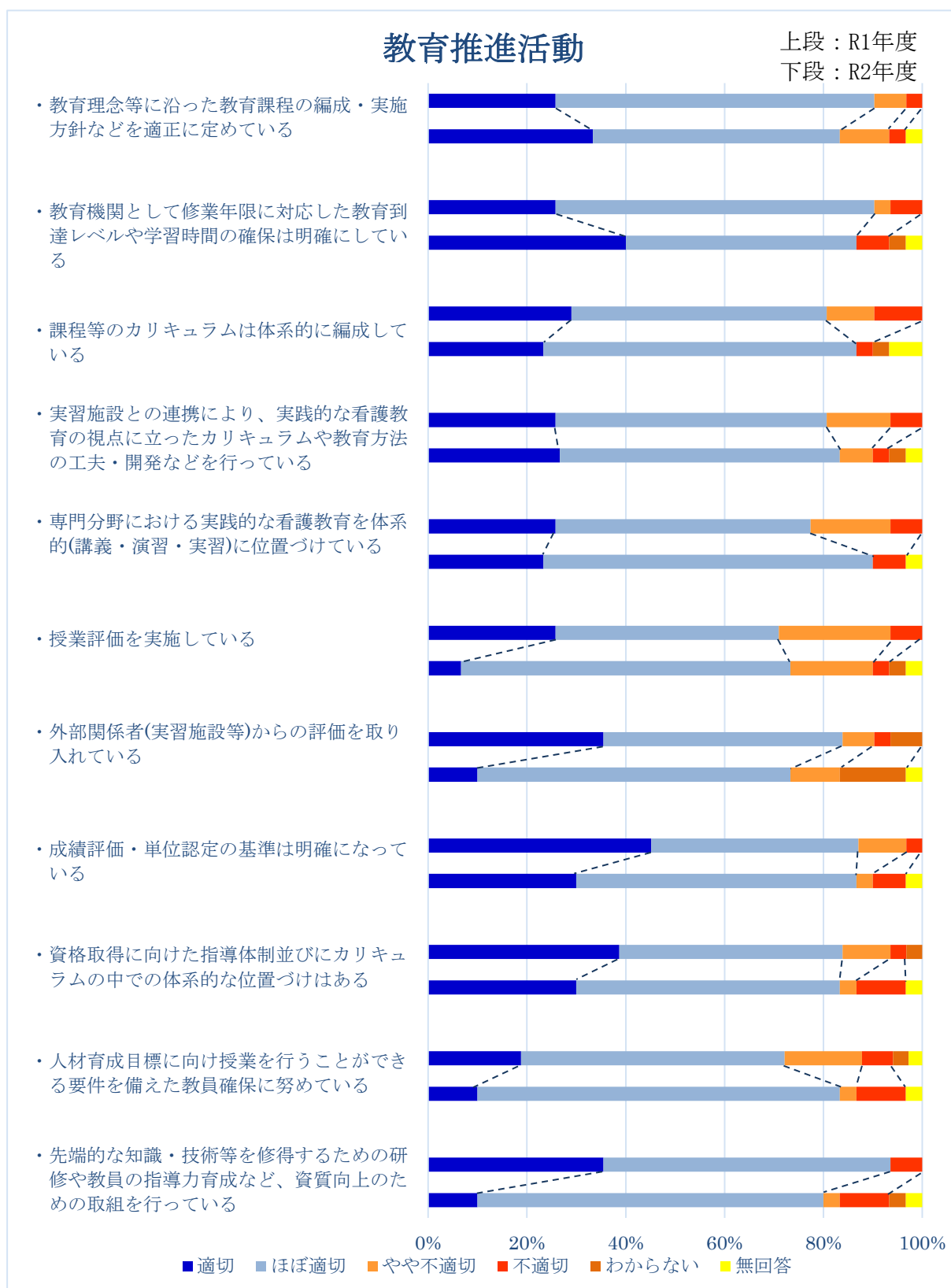
イ 法令遵守



自己評価	外部評価
<p>全ての項目において「適切」「ほぼ適切」が80%以上であるが、「自己点検・自己目標の実施及び問題点の改善に努める」で6.7%が「不適切」とし、また、「自己点検自己評価を実施し、結果を公開している」は3.3%が「不適切」としている。法令に遵守して学校運営している本校としては、自己点検自己評価の結果に基づき、問題点を抽出し改善にむけての対策をたて運営していることを全職員に周知していく必要がある。また、経営管理と同様に学校の運営に対して教職員が関心をもてるようにしていく必要がある。</p>	<p>引き続き、一層の向上に向けて推進されますよう祈っております。</p> <p>適切に管理されていると思います。</p> <p>適切で問題ないと思います。</p> <p>意見なし</p>

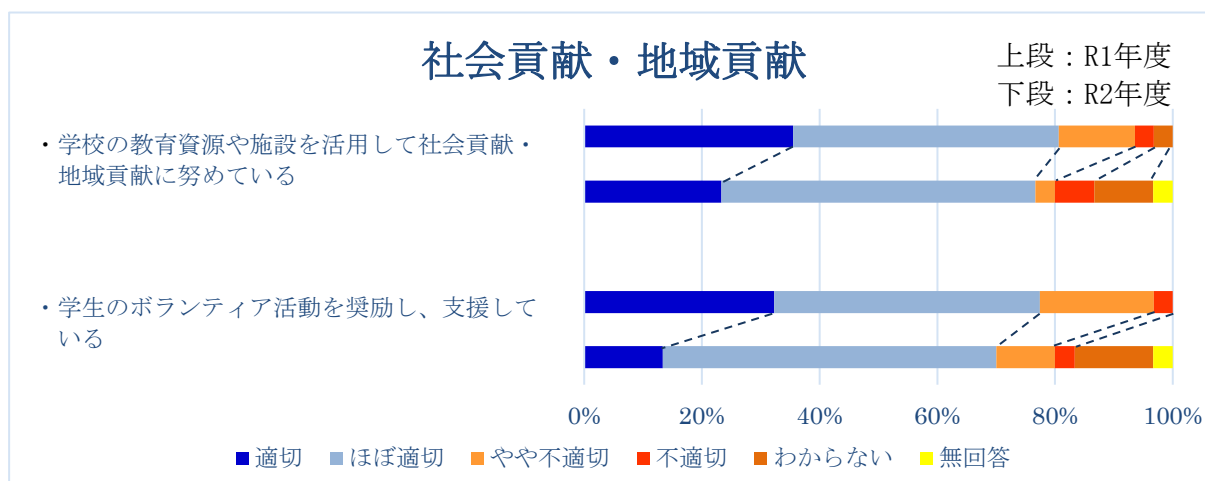
III. 教育活動

(1) 教育推進活動



自己評価	外部評価
<p>「授業評価を実施している」「外部関係者からの評価を取り入れている」の項目以外は昨年度同様に全体の80%以上が「適切」・「ほぼ適切」であり、中でも、「課程等のカリキュラムは体系的に編成している」や「専門分野における実践的な看護教育を体系的に位置付けている」「人材育成教育目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教育確保に努めている」は肯定評価が増加した。これは、教員全体でカリキュラム改正に向けて見直しを行っており、教育活動に関する関心も高まっていることが予測され、概ね、教育活動はほぼ適切に行われていると考える。</p> <p>一方、11項目中6項目で「わからない」が3.3%であることは、「教育推進活動に関すること」について新人教員の認知・理解・意識が低いことも考えられる。中でも、「外部関係者からの評価を取り入れている」では「わからない」が13.3%、「授業評価を実施している」では「やや不適切」が17%となっている。「先端的な知識・技術などを習得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取り組みを行っている」では、「やや不適切・不適切」が13%になっている。今年度は、コロナ禍により、研修機会も減ったことに加えて、授業時間の短縮やリモート授業、実習期間の短縮や学内実習など新たな取り組むことが増え、そのことが例年の評価よりも低下した要因であると考えられる。</p> <p>「授業評価」については、学校あり方検討会にて授業評価の見直しを行い、内容が共有され、学生からの評価を踏まえて授業の質を改善していく必要が認知されてきたと考える。カリキュラム改正に向けて、各教員がカリキュラムの編成に関する理解を深め、より一層、知識・技術、資質向上のために取り組むことが課題である。</p>	<p>教員の皆さん全体でカリキュラム改正の見直しを進められたとのこと、とても大切な取組であると存じます。また、学校あり方検討会の充実により、授業改善につながっているとのことですので良い状況であると存じます。一方で、「外部関係者からの評価を取り入れている」について「わからない」が1割超ということで、外部評価の存在そのものが一般的になっていない部分があるのかなと感じます。</p> <p>生徒達は度々登校ができなくなり不安だったと思いますが、昨年よりもWeb授業や実習授業などにおいてスムーズに対応されたことは大きく評価できると思います。</p> <p>カリキュラムの改正に向けての見直しを教員の皆さまが活動された成果がしっかり現れているのだと思います。授業のリモート化や実習期間の短縮等の影響はあるのだと思いますが、制限がある中でも教育推進に向けて活動された成果であると思いました。</p> <p>意見なし</p>

IV. 社会貢献・地域貢献・国際交流



自己評価	外部評価
<p>「学校の教育資源や施設を利用して社会貢献・地域貢献に努めている」については「適切」・「ほぼ適切」が約80%であり昨年度をやや下回った。今年度は校内への立ち入り制限もあり、看護学科と地元高校との連携授業である実習をやむなく中止した。一方で、助産学科の高校に出向いての性教育は、一部リモートを取り入れた方法で、例年とは異なった展開ではあったが、概ね好評で終えることができた。ボランティア活動も地域の行事が中止となり、参加の機会が少なかった。今後も引き続き、教員も学生も地域や社会貢献につながる活動を実施していきたい。</p>	<p>会議の場でも申し上げましたが、令和2年度は助産学科の学生の皆様に対面とオンライン併用の性教育を行っていただきました。御自身の勉学にお忙しいなか、かなりの時間を割いて御準備いただいたものと拝察いたします。本当にありがとうございました。本校生徒にとって大変貴重な時間となっておりますので、引き続き御指導いただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>行事や地域の方々とのつながりは全て中止であったが、一部の助産学科の高校とはリモートを通して繋がりを取り入れられことは、例年とは異なった展開ではあるが良かったと思います。社会貢献するということは将来にとっても必要なことだと思います。清掃活動、ボランティア活動等積極的に取り組まれている姿勢は高く評価したいと思いますし、今後も続けていただきたい。</p> <p>必要であれば保護者も協力できることはさせていただきたいと思います。</p> <p>コロナ禍でも高校への出前講座を実行されるなど、素晴らしいと思いました。</p> <p>社会的にいろいろな行事が中止となっており活動は難しいと思われる。助産学科の活動だけでなく、コロナ禍で人と人とのつながりが希薄な昨今なので、看護学科でも何か取り組んでいただきたいと思う。</p>

【東稜高等学校】

ライフサポートコース 体験授業の受け入れ 1回 10月15日(木) 秋山寛子

【洛東高等学校】

対面とリモート併用の性教育 1回 2月18日(木) 助産学科12期生

【環太平洋大学】

看護教員実習の受け入れ1名 9月28日～10月9日

【講師派遣】

京都府看護協会

実習指導者(看護師)講習会 令和2年10月～12月

2年課程の教育制度

加悦浩美

母性看護学臨地実習指導の展開

秋山寛子

実習指導の実際・演習

秋山寛子

実習指導の実際・演習

廣澤紀代

洛和学園 実習指導者講習会 看護教育課程(2年課程)

加悦浩美

<分野別模擬授業(看護専門学校)>

京都府立八幡高等学校1年生 10月16日(金)

橋戸好美

京都府立八幡高等学校2年生 11月13日(金)

橋戸好美

京都府立洛水高等学校2年生 11月17日(火)

秋山寛子

京都府立木津高等学校1年生 11月18日(水) 同日2回

秋山寛子

京都府立京都すばる高等学校2年生 11月30日(月)

橋戸好美

【学会/職能関係】

京都母性衛生学会理事・副編集委員長

秋山寛子

京都府看護協会推薦委員

守屋嘉奈子

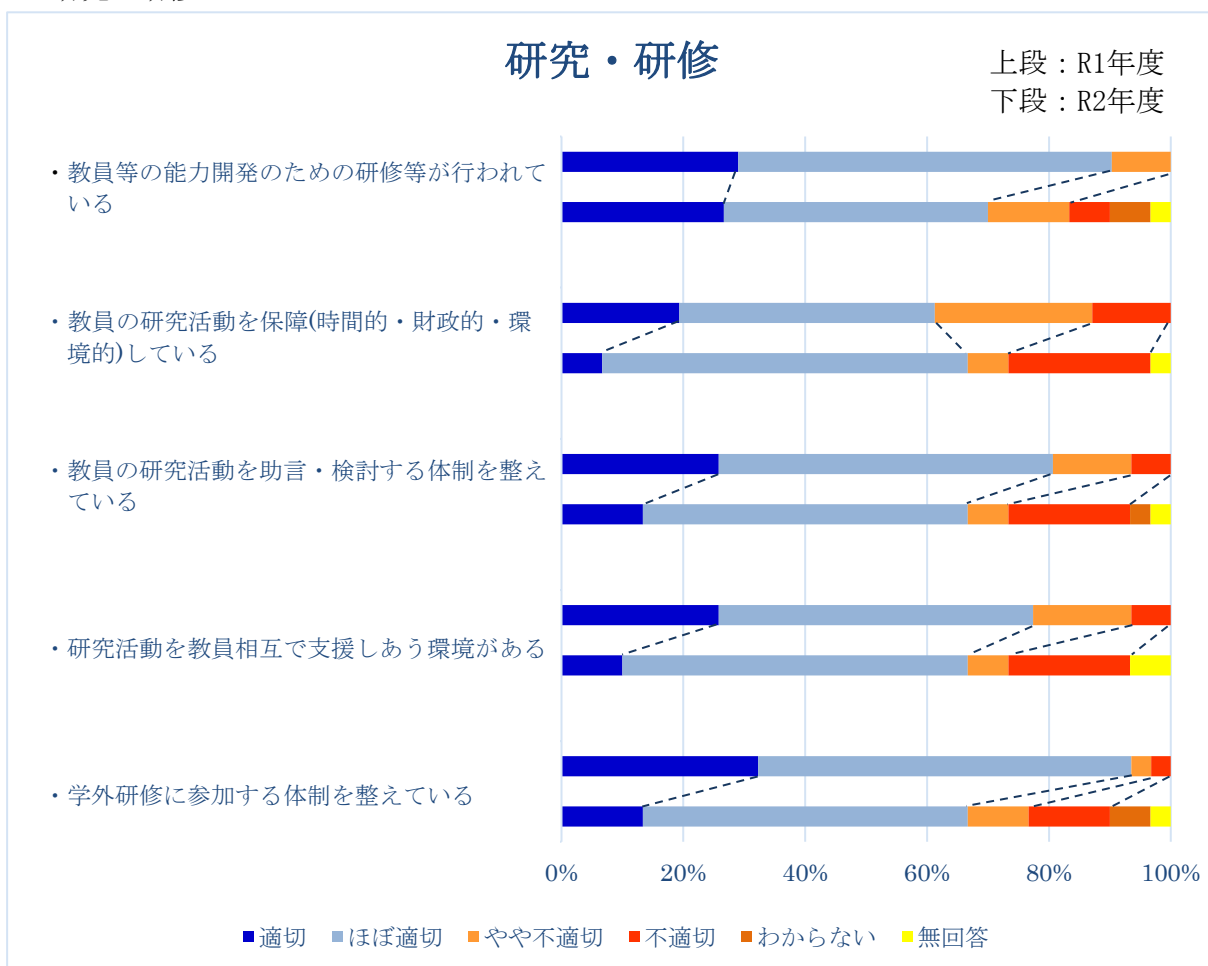
京都府看護協会総会協力委員

守屋嘉奈子

山科保健センター運営協議会委員

秋山寛子

V. 研究・研修



自己評価	外部評価
<p>「教員等の能力開発のための研修等が行われている」については、今年度はコロナ禍の影響で研修の開催中止による不参加や感染防止の観点から参加しにくい状況にあったことから評価が低かったと考える。</p> <p>しかし、制限された中でも、オンライン研修への参加や、教員研究においては、京都看護大学の豊田教授によるオンライン指導を受け発表に向け取り組んだ。発表は、オンラインとなったが、全教員が発表することができ、積極的に教育能力開発に努めた。</p> <p>次年度はオンライン研修も増えることが予測されるため、積極的に参加を呼び掛ける必要がある。</p>	<p>コロナ禍においてリアルな研修等の実施が困難であったと思います。その中で工夫され皆様が積極的な研修を進められたことに敬意を表します。今後も厳しい状況が予見される医療現場へ看護師を送り出される皆様は、日々並々ならぬ努力と研鑽を積み重ねられていることと存じます。心から感謝申し上げます。</p> <p>学外教育研究・研修への参加に関してはなかなか難しいとは思いますが。評価に関して昨年より低かったことは感染予防の観点から参加しにくい状況であったことと思います。それでもオンラインを通しての研修は全教員が参加する等、体制を整えられ参加されているということは、皆様の努力もあり評価できると思います。</p> <p>看護研究発表を教員全員が発表された成果は素晴らしいと思いました。</p>

	私達、看護の現場においてもコロナの影響で研修参加が少なくなっている。オンライン研修が中心となる中で、どのように現場の教育と連動していくかが課題と感じているので、先生方から助言も頂きたいと思う。
--	--

【学校内】

新人教員研修	4月1日(火)～8月6日(木)5日間	4名
研究授業	令和2年4月～令和3年3月	2名
公開授業	令和2年4月～令和3年3月	3名
シンポジウム	12月25日(月)	全職員
テーマ1	「成人看護学実習 急性期の代替実習の実際」3年課程 澤田恵里教員 「在宅看護論実習 代替実習の実際」3年課程 秋田葵教員	
テーマ2	「コロナ感染症と戦う現状報告」2年課程 橋本登喜子副主任	
テーマ3	「成人老年看護実習 代替実習」准看護科 佐藤真由美教員	
テーマ4	「助産学科の代替実習」助産学科 橋戸好美教員	
テーマ5	「WEB授業の準備を中心とした臨機応変な対応について」学校事務 中川事務長	

研究発表 3月25日(月)7演題 全職員

本校の臨地実習における事前学習に対する教員の認識調査(中間報告) 花房彩子
 学生に求めるコロナ感染予防に関する本校教員の認識 山田佳代子
 小児のイメージができる小児看護技術の一考察 松井いづみ
 周術期看護実習における代替実習の実際 井上理子
 シミュレーション教育実践の振り返り 瀧川 結子
 「胎児心音を聞かせる」分娩介助技術試験から見た学生の傾向 井上沙織
 臨地実習における社会人学生の変化—臨地実習記録から学生とのかかわりを考える— 太田やす子

【学校外】

1. 学会発表
無し
2. 学会・研究会等参加
日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会 2021.2.28 ライブ配信<自費>

【長期研修】

教務主任養成講習会(19年4月22日～21年3月31日)(大阪)1名

【短期研修】

ナイチンゲール研究所：ナイチンゲール看護研究所セミナー(大阪)1名
 国立情報学研究所：遠隔授業に関する取組状況共有サイバーシンポジウム(オンライン)1名
 助産師オンライン24時間マラソン <自費>3名
 日本看護学校協議会：カリキュラム改正支援事業 <eラーニングと京都>1名
 愛知県弁護士会：「ほとんどない」ことにされてきた性暴力(オンライン)1名
 京都府看護協会：小児在宅移行支援(オンライン)2名
 京都府看護学校連絡協議会：新型コロナウイルス感染拡大防止のための、臨地実習のあり方(オンライン)3名
 日本看護協会神戸研修センター：コロナ禍における新人看護職員研修(オンライン)2名
 医学書院：カリキュラム編成準備セミナー(オンライン オンデマンド)3名
 バーチャルナショナル SUN：シミュレーショントレーニングプログラム1名<自費>(オンラ

イン) 1名

医学書院：国家試験対策（オンライン）2名

日本看護学校協議会 校長会（オンライン）2名

京都府看護協会施設代表者会議（オンライン）1名

さわ研究所：看護師国家試験対策教員セミナー3名（オンライン、オンデマンド）

3. 論文・執筆等

無し